

**平成 2 3 年度  
事務事業評価実施報告書  
(平成 2 2 年度分)**

**平成 2 4 年 1 月**

**大仙市 総務部 総務課**

# 目 次

## 1 事務事業評価の実施について

- (1) 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (3) 評価の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

## 2 平成23年度事務事業評価実施結果について

- (1) 評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (2) 昨年度評価結果との比較・・・・・・・・・・ 4
- (3) 総合計画の体系別評価結果・・・・・・・・ 6
- (4) 今後の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

## 別紙 平成23年度事務事業評価結果一覧

# 1 事務事業評価の実施について

## (1) 基本方針

急速に進む少子高齢化など、日々変化する社会情勢の中、市民ニーズはますます多様化・高度化してきているものの、財政面では、健全化を目指しながらも依然として厳しい運営を強いられている。

このような中、効果的で効率的な行財政運営を確立するため、既存の事務事業を厳しく見直すことにより徹底したスクラップを行い、限られた経営資源（ヒト、モノ、カネ、時間、情報）をニーズの高い本当に必要な事業に集中して投入することが求められている。

このことから、最小の経費でより質の高い市民サービスを提供し、市民満足度を高めようという行政改革の視点に立ち、業務活動の基本単位である事務事業を、計画（Plan）・実施（Do）・評価（Check）・改善（Action）のマネジメントサイクルの中で管理し、活動実績、成果、コストなどに関する情報を整理・分析することにより課題を発見し、それを改善へと結びつける「事務事業評価」システムを実施するものである。

## (2) 目的

### ア 行政コストの削減

事務事業評価システムを、自己点検ツールとして指標を用いて客観的に測定し、マネジメントサイクル（PDCA）で管理することにより、効果的で効率的な事業の執行を目指す。

### イ 市民への責務

評価の結果を公表することにより、市民に対する責務を果たすとともに、情報を共有することにより、多くの市民の意見を行政経営に反映させるきっかけをつくる。

### ウ 職員の意識改革

各事務事業の現状を認識し、課題や解決方法を検討することにより、職員個々のより高い改善意識の醸成を目指す。

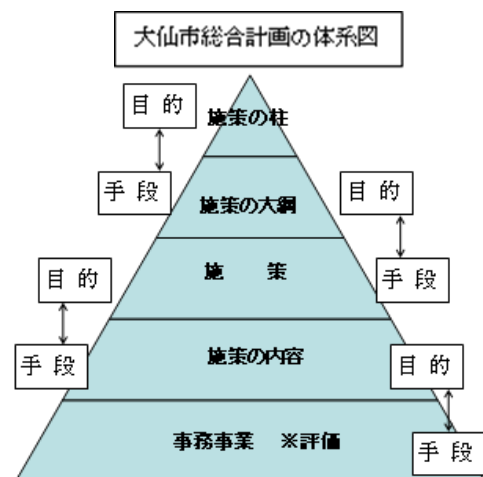
## (3) 評価の概要

### ア 評価対象事業

評価開始年度以降3年以上継続する予算上の事務事業を基本とし、前年度の結果について行う事後評価とする。

また、大仙市総合計画に示す体系図（右図）に当てはめることにより、その事務事業の目的を明確にする。

なお、次に該当するものは評価対象にしないこととする。



- ① 職員の人件費・特別職報酬・交際費・公債費・債務負担・繰出金・災害復旧費
- ② 法令などに定められた義務的事業や国県委託金等、市に裁量の余地がないもの
- ③ 臨時的経費
- ④ その他、評価を行う実益がない、または極めて低いと判断されるもの

## イ 評価主体

評価は、投入コスト・活動実績・成果について数値を用いて行政活動を客観的に測定し、その結果により必要性・有効性・効率性を判断する。

そのため、評価者は事務事業の内容に精通していることが求められることから、事務担当者が事務事業評価シートに記入・分析・評価し、その後所属長（課長等）が総合評価をする。

- ① 投入コスト  
当該事業にどれだけ経営資源を投入したかを、人件費を含むフルコストで数値化
- ② 活動結果  
行政活動量やサービス量など、事業の結果量を数値化
- ③ 成果  
行政活動の結果、事業の目的がどの程度達成され、市民にどれだけの便益をもたらしたかを数値化

## ウ 評価の視点

事務事業評価では、活動実績、成果を数値化し、実施結果を捉え、次の評価項目について分析を行う。

評価項目	主な内容
必要性 (引き続き実施していくのか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①【市民ニーズ】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境の変化等により事業の役割が薄れていないか。</li> <li>・サービスの対象者や利用者が増加するなど、ニーズの高さが伺える材料があるか。</li> </ul> </li> <li>②【市が実施する必要性】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市が実施主体であることは妥当か。 (国・県・民間の活動と競合していないか)</li> </ul> </li> <li>③【計画上の位置付け】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・施策を達成するための手段として妥当か。</li> </ul> </li> </ul>
有効性 (成果はあったか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①【成果】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果は順調に推移しているか。</li> </ul> </li> <li>②【活動内容見直しの余地】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果を向上させるため、活動(事業)内容に見直しの余地はないか。</li> </ul> </li> </ul>
効率性 (より良く進める余地はあるか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①【民間の活用】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間活力の活用(指定管理・委託等)によって、成果を下げずにコスト削減できないか。</li> </ul> </li> <li>②【他事業との統合・連携】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・類似事業との統合や関連事業との連携によるコスト削減は可能か。</li> </ul> </li> <li>③【人件費の圧縮】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当職員の削減や臨時雇用等により人件費を圧縮できないか。</li> </ul> </li> <li>④【コストの縮減】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他、成果を維持しながらコスト削減できないか。</li> <li>・コストを増加させずに成果を増やすことができないか。</li> </ul> </li> </ul>

総合評価	評価基準
<b>現状</b> (現状のまま継続)	事業の成果が得られており、現状のままで継続することが妥当である。
<b>改善</b> (改善しながら継続)	事業内容などを見直すことで成果の向上が期待できる。
<b>拡大</b>	必要性が高く、事業の規模や予算を拡大して実施する。
<b>縮小</b>	引き続き実施するが、事業の規模や予算を縮小することが妥当である。
<b>廃止</b>	環境や市民ニーズの変化等により、事業効果が薄れてきたため廃止する。
<b>終了</b>	目的を達成したため終了する。計画期間を終えて終了する。法改正や制度改正によって終了する。

## 2 平成23年度事務事業評価結果について

### (1) 評価結果

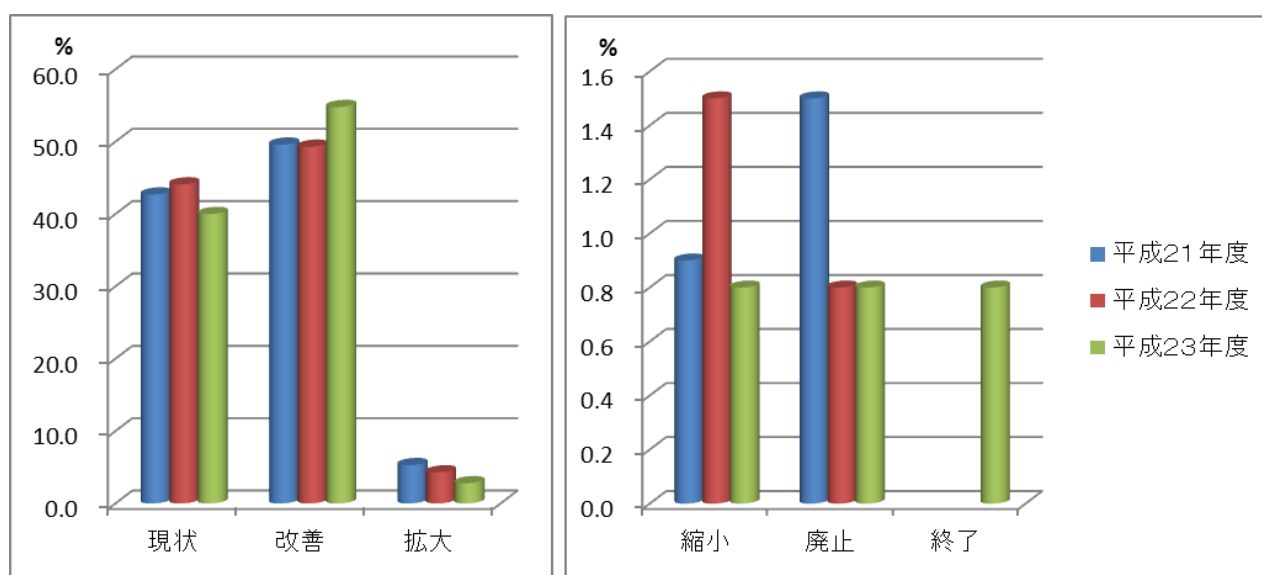
平成23年度は、平成22年度に実施した事務事業のうち、529の事務事業について内部評価を実施した。

その結果、「改善」が290事業と最も多く、「現状」が212事業、「拡大」が15事業、「縮小」、「廃止」、「終了」がともに4事業となった。

今後の方向性について継続するとした事務事業は、「拡大」、「縮小」の評価を含め521事業で全体の98.4%となっている。また事務事業を継続する場合でもその半数以上については、改善の必要性があると評価している。

総合評価	平成23年度		平成22年度		平成21年度	
	評価件数	構成比	評価件数	構成比	評価件数	構成比
現状	212	40.0%	228	44.1%	194	42.7%
改善	290	54.8%	255	49.3%	225	49.6%
拡大	15	2.8%	22	4.3%	24	5.3%
縮小	4	0.8%	8	1.5%	4	0.9%
廃止	4	0.8%	4	0.8%	7	1.5%
終了	4	0.8%	-	-	-	-
計	529		517		454	

※平成23年度から総合評価に「終了」の区分を設定し、6段階としている。



### (2) 昨年度評価結果との比較

平成23年度に評価を行った529の事務事業のうち、昨年度から継続して評価を行っている事務事業は511事業、新規に評価を行った事務事業は18事業あった。評価結果を比較した結果、昨年度と評価が変わった事務事業は123事業、昨年度と評価が変わらなかった事務事業は388事業となった。

H22評価	→	H23評価	件数
現状 (228)	→	現状	166
		改善	56
		拡大	1
		縮小	1
		廃止	0
		終了	1
		計	225

H22評価	→	H23評価	件数
改善 (255)	→	現状	33
		改善	211
		拡大	4
		縮小	2
		廃止	3
		終了	3
		計	256

H22評価	→	H23評価	件数
拡大 (22)	→	現状	5
		改善	7
		拡大	10
		縮小	0
		廃止	0
		終了	0
		計	22

H22評価	→	H23評価	件数
縮小 (8)	→	現状	1
		改善	5
		拡大	0
		縮小	1
		廃止	1
		終了	0
		計	8

H22評価	→	H23評価	件数
H22評価なし (H23新規評価)	→	現状	7
		改善	11
		拡大	0
		縮小	0
		廃止	0
		終了	0
		計	18

※ 平成22年度評価に対する平成23年度評価の変化を示しているが、「H22評価」と「H23評価」の評価件数の差は、平成23年度に事務事業評価を実施する時点で、評価対象事業の統合や整理を行ったことによるもので、「現状」では3事業の減、「改善」では1事業の増となった。

### 総合評価で拡大と評価した事務事業 15 事業

番号	事務事業名	課名	H23 総合評価	H22 総合評価
1	指定管理者制度導入推進事業	総務部総務課	拡大	拡大
2	職員研修事業	総務部総務課	拡大	改善
3	福利厚生事業(メンタルヘルス)	総務部総務課	拡大	拡大
4	防災対策事業	総務部総合防災課	拡大	拡大
5	環境学習推進事業	市民部環境交通安全課	拡大	現状
6	介護予防事業(まめまめ教室)	健康福祉部地域包括支援センター中央	拡大	改善
7	包括的支援事業(権利擁護事業)	健康福祉部地域包括支援センター中央	拡大	拡大
8	自殺予防対策事業	健康福祉部健康増進センター	拡大	拡大
9	大仙市観光情報センター管理運営事業	農林商工部商工観光課	拡大	拡大
10	中心市街地賑わい創出事業(花火庵管理運営委託)	農林商工部商工観光課	拡大	改善
11	国土調査事業	建設部道路河川課	拡大	拡大
12	消雪施設等補助事業	建設部道路河川課	拡大	拡大
13	交通安全施設整備事業	建設部道路河川課	拡大	拡大
14	学校生活支援事業	教育指導部教育指導課	拡大	拡大
15	学校支援地域本部事業(学校応援団)	生涯学習部生涯学習課	拡大	改善

### 総合評価で縮小と評価した事務事業 4 事業

番号	事務事業名	課名	H23 総合評価	H22 総合評価
1	世代交流福祉施設管理事業	健康福祉部社会福祉課	縮小	現状
2	健康管理支援事業	健康福祉部生活支援課	縮小	改善
3	へき地保育所管理運営事業	健康福祉部児童家庭課	縮小	縮小
4	高速自動車国道活用施設管理事務	西仙北支所市民サービス課	縮小	改善

### 総合評価で廃止と評価した事務事業 4 事業

番号	事務事業名	課名	H23 総合評価	H22 総合評価
1	生きがい活動支援通所事業(ミニデイ)	健康福祉部社会福祉課	廃止	縮小
2	通所介護・介護予防通所介護サービス事業(ぬくもりの郷)	健康福祉部南外生活支援ハウス	廃止	改善
3	清水診療所	健康福祉部健康増進センター	廃止	改善
4	雇用促進住宅仙北宿舍専用給水施設管理事業	仙北支所市民サービス課	廃止	改善

### 総合評価で終了と評価した事務事業 4 事業

番号	事務事業名	課名	H23 総合評価	H22 総合評価
1	協働のまちづくり事業[大仙若者会議]	企画部男女共同参画・交流推進課	終了	改善
2	ボランティア活動支援事業	健康福祉部社会福祉課	終了	改善
3	農業用排水路整備事業	農林商工部農林振興課	終了	改善
4	特産物生産振興対策事業	太田支所農林建設課	終了	現状

## (3) 総合計画の体系別評価結果

事務事業評価の評価結果を総合計画の体系別に分類すると、市のまちづくりの基本的な方針を示す7つの「施策の柱」においては、第2節の教育分野の評価件数が186事業と最も多く、全体の35.2%を占めた。また、施策の柱において、事業規模の見直しを含め改善を必要とする事務事業の割合（「改善」、「拡大」、「縮小」が占める割合）は、第6節の地域情報・交流分野が88.2%と最も高い結果となった。

次に、施策の柱の目的を示す「施策の大綱」において、事業規模の見直しを含め改善を必要とする事務事業の割合（「改善」、「拡大」、「縮小」が占める割合）を比較すると、第1節の保健・福祉・医療分野では「子育て支援の充実」（81.8%）、第2節の教育分野では「生涯学習の推進」（61.6%）、「スポーツ、レクリエーションの推進」（61.5%）、第3節の産業分野では「観光の振興」（88.5%）、「雇用の安定、就労の促進」（100%）、第4節の都市基盤分野では「公共交通の整備」（66.7%）、第5節の環境・安全分野では「住宅環境の整備」（100%）、「生活の安全、安心確保」



(76.5%)、第6節の地域情報・交流分野では「地域情報化の推進」(83.3%)、「男女共同参画社会の形成」(100%)、「国際交流の促進」(100%)、第7節の財政運営・市民との協働分野では「行財政運営の効率化」(76.9%)が高い結果となった。

※ 施策の大綱別で評価件数が1事業となった場合(評価結果に対する割合が必ず100%になるもの)は、比較の対象から除いた。

総合計画の体系 施策の柱	評価件数	構成比
第1節 安心して健やかに暮らせるまちづくり	108	20.4%
第2節 未来を創り心豊かな人を育むまちづくり	186	35.2%
第3節 生き活きと希望を持って活躍できるまちづくり	79	14.9%
第4節 生活の基盤が整ったまちづくり	37	7.0%
第5節 環境と調和し快適で安全に暮らせるまちづくり	37	7.0%
第6節 仲間とふれあいともに活躍できるまちづくり	17	3.2%
第7節 計画の推進にあたって	22	4.2%
総合計画の体系に該当なし	43	8.1%
合計	529	

### 第1節 安心して健やかに暮らせるまちづくり (保健・福祉・医療分野)

総合計画の体系 施策の大綱	件数	総合評価別						「改善」、「拡大」、「縮小」 評価の割合
		現状	改善	拡大	縮小	廃止	終了	
1 保健・医療の充実	10	6	2	1	0	1	0	30.0%
2 子育て支援の充実	11	2	8	0	1	0	0	81.8%
3 社会福祉の充実	22	14	7	0	0	0	1	31.8%
4 高齢者福祉の充実	47	15	27	2	1	2	0	63.8%
5 社会保障の促進	18	12	5	0	1	0	0	33.3%
6 該当なし	0	0	0	0	0	0	0	-
計	108	49	49	3	3	3	1	50.9%

### 第2節 未来を創り心豊かな人を育むまちづくり (教育分野)

総合計画の体系 施策の大綱	件数	総合評価別						「改善」、「拡大」、「縮小」 評価の割合
		現状	改善	拡大	縮小	廃止	終了	
1 学校教育の充実	37	15	21	1	0	0	0	59.5%
2 生涯学習の推進	73	28	44	1	0	0	0	61.6%
3 芸術、文化の振興	36	18	18	0	0	0	0	50.0%
4 スポーツ、レクリエーションの推進	39	15	24	0	0	0	0	61.5%
5 世界平和の希求	1	0	1	0	0	0	0	100.0%
6 該当なし	0	0	0	0	0	0	0	-
計	186	76	108	2	0	0	0	59.1%

### 第3節 生き生きと希望を持って活躍できるまちづくり（産業分野）

総合計画の体系 施策の大綱	件数	総合評価別						「改善」、「拡大」、「縮小」 評価の割合
		現状	改善	拡大	縮小	廃止	終了	
1 農林水産業の振興	48	22	24	0	0	0	2	50.0%
2 商業の振興	1	0	0	1	0	0	0	100.0%
3 工業の振興	1	1	0	0	0	0	0	0.0%
4 観光の振興	26	3	21	1	1	0	0	88.5%
5 雇用の安定、就労の促進	2	0	2	0	0	0	0	100.0%
6 該当なし	1	1	0	0	0	0	0	0.0%
計	79	27	47	2	1	0	2	63.3%

### 第4節 生活の基盤が整ったまちづくり（都市基盤分野）

総合計画の体系 施策の大綱	件数	総合評価別						「改善」、「拡大」、「縮小」 評価の割合
		現状	改善	拡大	縮小	廃止	終了	
1 道路の整備	4	4	0	0	0	0	0	0.0%
2 公共交通の整備	15	5	10	0	0	0	0	66.7%
3 市街地の整備	5	2	2	1	0	0	0	60.0%
4 上水道の整備	8	4	4	0	0	0	0	50.0%
5 下水道等の整備	5	2	3	0	0	0	0	60.0%
6 該当なし	0	0	0	0	0	0	0	-
計	37	17	19	1	0	0	0	54.1%

### 第5節 環境と調和し快適で安全に暮らせるまちづくり（環境・安全分野）

総合計画の体系 施策の大綱	件数	総合評価別						「改善」、「拡大」、「縮小」 評価の割合
		現状	改善	拡大	縮小	廃止	終了	
1 自然環境の保全	2	2	0	0	0	0	0	0.0%
2 住宅環境の整備	2	0	2	0	0	0	0	100.0%
3 公園・緑地の整備	4	3	1	0	0	0	0	25.0%
4 衛生環境の整備	8	5	2	1	0	0	0	37.5%
5 公害防止対策の推進	1	1	0	0	0	0	0	0.0%
6 生活の安全、安心確保	17	4	11	2	0	0	0	76.5%
7 雪対策の強化	3	1	1	1	0	0	0	66.7%
8 該当なし	0	0	0	0	0	0	0	-
計	37	16	17	4	0	0	0	56.8%

## 第6節 仲間とふれあいともに活躍できるまちづくり（地域情報・交流分野）

総合計画の体系 施策の大綱	件数	総合評価別						「改善」、「拡大」、「縮小」 評価の割合
		現状	改善	拡大	縮小	廃止	終了	
1 地域情報化の推進	6	1	5	0	0	0	0	83.3%
2 男女共同参画社会の形成	8	0	8	0	0	0	0	100.0%
3 地域間交流の促進	0	0	0	0	0	0	0	-
4 国際交流の促進	2	0	2	0	0	0	0	100.0%
5 該当なし	1	1	0	0	0	0	0	0.0%
計	17	2	15	0	0	0	0	88.2%

## 第7節 計画の推進にあたって（財政運営・市民との協働）

総合計画の体系 施策の大綱	件数	総合評価別						「改善」、「拡大」、「縮小」 評価の割合
		現状	改善	拡大	縮小	廃止	終了	
1 行財政運営の効率化	13	3	7	3	0	0	0	76.9%
2 市民との協働	9	4	4	0	0	0	1	44.4%
3 該当なし	0	0	0	0	0	0	0	-
計	22	7	11	3	0	0	1	63.6%

### 総合計画の体系に該当なし

総合計画の体系 施策の大綱	件数	総合評価別						「改善」、「拡大」、「縮小」 評価の割合
		現状	改善	拡大	縮小	廃止	終了	
総合計画の体系に該当なし	43	18	24	0	0	1	0	55.8%

## （4） 今後の取組

市が実施する行政評価には、「市民による市政評価（市民評価）」の外部評価と「事務事業評価」の内部評価があり、事務事業評価については、制度を導入した平成20年度から平成23年度までの間に試行を含め3回の評価を実施している。

3回の事務事業評価の実施による成果としては、担当課において評価シートを作成することにより事務事業の目的を明確にするとともに、活動結果や成果を数値化することによって事務事業の現状や課題を再認識するという点で、職員の意識改革に一定の効果があつたと考える。

今後は、事務事業評価の実施が単なる評価シートの作成や評価結果の取りまとめで終わらないために、評価シートの有効活用が課題となるが、評価結果を次年度以降の業務改善や事業計画、予算へ反映させていくためには、事務事業評価の実施スケジュールの見直しが必要である。

また、評価シートについては、市民への公表に加え、予算編成や決算の事業説明資料としても活用していく方向であるが、まだ説明不足の評価シートも多く十分な内容とは言えないため、今後は職員が同じ基準で評価を行い、評価シートの内容を充実させていくことが必要である。そのためにも、事務事業評価に対する職員の理解を一層深めるとともに、PDCAのマネジメントサイクルがより機能する評価手法を検討し、

評価シートの改良を重ねていく。

さらに、現在、施策を対象とする市民評価と事務事業評価は、相互の連携が図られていないことから、今後は市民評価と事務事業評価の連携に向けて取り組んでいく。